

棧原城(厳原城, 棧原屋形, 府中城)(対馬市厳原町棧原)

(陸上自衛隊対馬駐屯地)

棧原城（さじきはらじょう）または棧原屋形（さじきばるやかた）は、長崎県対馬市厳原町棧原にあった城郭で、対馬府中藩 3 代藩主宗義真が金石城を拡張整備したのと同時期に新築された藩主の屋形。金石城からは市街をはさんで北東隣に位置する。

概要

万治 3 年（1660 年）3 月に着工し、延宝 6 年（1678 年）に完成した。金石城に代わって新しく府城となった。対州府城または府中城とも称した。明治 2 年（1869 年）に対馬府中を厳原と改称してからは厳原城（いずはらじょう）とも呼称する。現在城跡には陸上自衛隊対馬駐屯地が置かれている。

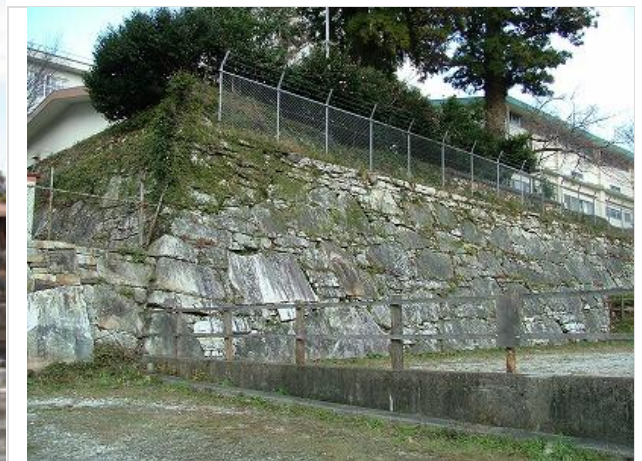
対馬府中の整備

着工と同時に府中城下町の町割と水利工事が行われている。1663 年（寛文 3 年）には藩営ドックである「お船江」が完成し、1669 年（寛文 9 年）には金石館に櫓門が築かれた。また、1685 年（貞享 2 年）には棧原の南に子弟教育のための学校「小学校」が建てられた。厳原は、現在もこの時期の城下整備による街並みのようすをとどめている。

遺構

遺構としては、第三門であった高麗門が県立対馬歴史民俗資料館付近に復元されている。また、石垣の一部が現存しており、標柱で案内がなされている。

Wikipedia による



対馬藩主の居館・棧原城の跡にあった高麗門が台風で倒壊した際、厳原町役場（現対馬市役所）近くに復元したもの。新材を使い、形式も元来とは異なるが、歴史的景観を形成する要素となっている。対馬市指定文化財